

実践事例 1 【ふるさととつなぐカリキュラムの構築（授業構成の工夫）】

第6学年 総合的な学習の時間「見つめよう 私たちのふるさとⅡ」

【単元の目標】

○ふるさと蘇陽に受け継がれている神楽を知り、神楽の体験を通して伝統文化を引き継いでいる人の思いや願いを見つめ、ふるさと蘇陽に目を向け、地域の一員として、伝統を引き継ぐ一員として関わろうとする。

【中心となる評価の観点】

(課題追求力)

・神楽保存会の人への聞き取りや体験交流を通して、蘇陽の伝統文化について意欲的に調べようとしている。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p><b>導入</b></p> <p>図か!これをがんばるぞ!</p>	<p>神楽について調べたことを伝え合い、神楽が見つないものについて自分の考えをもつことができる。</p> <p>めあて：神楽が見つないものは何かを考えよう。</p> <p>聞き取りをした中で一番伝えたいことを発表する。</p>
<p><b>展開</b></p> <p>図! やってみるぞ!</p> <p>図たえ合おう!</p>	<p>ぼくは、高畑の神楽の衣装や道具について調べました。使う道具や楽器は、鐘、大太鼓、小太鼓、横笛、鈴、扇、刀、ぶち、ごへい、弓、杖だそうです。想像以上に道具がありびっくりしました。本物は細かいいところまできれいに作ってあってとてもきれいでした。ぼくも作ってみたいと思いました。</p> <p>二つの神楽の共通しているところを見つけよう。</p> <p>道具や衣装も似ているけど、何百年と受け継がれた神楽をこれからも大切にしていこうとされているのも似ていると思います。</p> <p>ぼくは、高畑の田植え祭りに参加したことがあります。そのときはただ言われて参加していましたが、調べてみて神楽がこんなに歴史があって、地域に受け継がれてきていることを改めて知りました。ぼくたちも是非神楽を舞ってみたいです。</p>
<p><b>まとめ</b></p> <p>図れからのわたしたち</p>	<p>神楽保存会の方の思いを聞く。</p> <p>神楽に取り組んでいきましょう。</p>

【単元の成果○と課題●】

○地域素材を教材化したことで、自分たちの身近な歴史に目を向けるようになり、地域の方々の思いを知ることができた。

○神楽のことを詳しく「知りたい」という課題から、「神楽を舞いたい」という課題へ子どもの心が変化していった。さらに、保存会の方との出会いの中で、舞を教えたいという保存会の方の気持ち、舞ってみたいという子どもの気持ちが重なって、体験することができた。また、世代間の交流ができたことが大きかった。

●神楽の舞の体験では、仕事を終えた後、夜に教えていただいたため、保存会の皆さんの協力なしではできなかった。また、送迎等大変なので、継続させるためには手立てを工夫していく必要がある。

実践事例2【ふるさととつなぐカリキュラムの構築（授業構成の工夫）】

第2学年 道徳「ろ花さんとぷくぷく水」（くま本の心）





【題材の目標】

○自然に親しみ、自然を大切にしていこうという気持ちを育てる。

【中心となる評価の観点】

（自然愛）

・身近な自然を見つめた話し合いの中で、現在の自然の状況に気付き、これからも自然を大切にしていこうという気持ちが表れている。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p><b>導入</b></p> <p>図か！これを がんばるぞ！</p>	<p>自然の中で遊んだことを話す。</p> <p>・自ぜんが大好きなろ花さんの気持ち を考えよう！（自然愛）</p> <p>高畑の水源 でカモを見 ました！川 に笹舟を流 したね。</p> 
<p><b>展開</b></p> <p>よし！ やってみるぞ！</p> <p>図たえ合おう！</p>	<p>資料を読んで、ろ花さんのことや水前寺公園について知る。</p> <p>ろ花さんは、熊本 出身の小説家で自然 や人を愛した人 でした。</p> <p>魚をつたと 思います。石 投げもして遊 んだのかな。</p> <p>ろ花さんの水前寺公園への気持ちを考えよう。</p> <p>いつまでもきれいな 水がわいてほしい。</p> <p>ろ花さんは、水前 寺公園のことをど う思っていたでし ょう。シートに書 いてみよう！</p> <p>今もわいていると思 う。だって水がきれ いだから。</p>  
<p><b>まとめ</b></p> <p>図れからの わたしたち</p>	<p>水前寺公園の水は今もぷくぷくわいているのか考える。</p> <p>蘇陽の身近な自然について考える。</p> <p>じいちゃんは水源を 大事にしていたから ぼくも水を大事にし たいです。</p> 

【題材の成果○と課題●】

- これまでのふるさと学習でたくさん体験してきたことを積極的に発言しようとしていた。校区の川に思いを巡らせて、蘇陽の先人の努力にも気付く姿があり、実感として価値にせまれている。
- 教師が水前寺公園で撮った小さい頃の写真や現在の水が湧いている様子の動画を紹介することで、児童の関心を高め、自分の身近な自然について真剣に考えようという意欲につながった。
- 探検の資料をさらに効果的に活用する必要がある。

実践事例3【児童の「課題」を生み出す資料提供、教材教具の工夫】

第2学年 生活科「わたしの町 大すき」




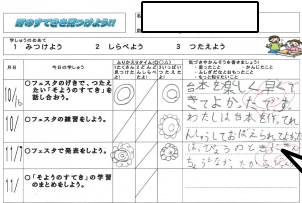
【単元の目標】

- 蘇陽の町を調べたり探検したりするなかで、蘇陽の自然やもの、そこでくらす人と関わり、よさを発見していくことができるようにする。
- 発見したことや体験したことを絵や文にまとめて、まわりの人々に伝えようとする。

【中心となる評価の観点】

（気付き）

- ・「そよのすてき」劇の台詞を考える協同的な学習をする中で、探検で見つけた地域のよさを理由を明確にして言葉にし、気付きを深め合うことができる。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p><b>導入</b></p> <p>図うか！これをがんばるぞ！</p>	<p>めあて：げきにしてつたえたい「そよのすてき」を考えよう。</p> <p>フェスタで伝えたい「そよのすてき」は、どんなことですか。</p> <p>・支所の人が水道の仕事を夜遅くまで頑張っていたこと。 ・高畑の川は、遊べるような工夫をしていたこと。</p> 
<p><b>展開</b></p> <p>図し！やってみるぞ！</p> <p>図たえ合おう！</p>	<p>再探検の班ごとに、すいかチャートを使って、劇の台詞になるすてきを、話し合ひましよう。</p> <p>「食べ物のすてき」は、まず、〇〇ちゃんのおばあちゃんのお茶畑。ぞう2頭分くらい採れることにびっくりした。入札もあるのは、私の家の牛と同じ。無農薬もいいね。</p> <p>班で話し合ったことをみんなに紹介しましよう。</p> <p>「働く人のすてき」は、蘇陽支所。町の人達が相談に来て、頑張っているのがすてきだな。</p> <p>「遊び場のすてき」は、鬼の門はどう？みんなでおしても動かなかったね。</p>  
<p><b>まとめ</b></p> <p>図れからのわたしたち</p>	<p>振り返りカードに、感想を書きましよう。</p> <p>・鬼の門は、ぼくもびっくりしたことを思い出した。 ・台本を楽しく作れてよかった。 ・すてきをいっぱい伝えることができてよかった。 ・フェスタで劇を見てもらうのが楽しみ。</p> 

【単元の成果○と課題●】

- フェスタで伝えるという見通しをもつことで、目的意識、相手意識をもち、意欲的に活動に取り組むことができた。
- 探検の気付きをまとめたポスターを掲示したことで、自分ですてきの理由付けをして、台詞の話し合いに臨むことができた。
- 思考ツールを工夫したことで、新たな課題を生み出したり、次の課題を主体的に考えたりすることができた。また、子どもの話し合いの様子も可視化できた。
- 様々な学習場面にそった思考ツールの活用で、より主体的な学習が可能だと思われる。発達段階と他教科との関連を考えながら活用を探りたい。



## 2 児童の「思い」を伝え合い、互いの考えをゆさぶり、 深め合うための手立て（仮説2）

### （1） 暮らしを見つめ表現する活動の日常化

児童は、暮らしそのものから、ふるさと蘇陽のすばらしさや誇りを感じ取っていく。児童が、体験したこと考えたことを様々な形で表現することは、ふるさとについて、進んで考え行動する力につながっていくと考えた。



【ペアチェンジ】



【オープンエンド】

#### ① レットークタイム

昨年度までの「ペアトークタイム」を発展させ、様々なスタイル（ペアチェンジ・オープンエンド・ディスカッション等）に取り組んだ。この活動が各教科・領域での取り組みにいかせるよう題材等を工夫した。

#### ② 日記やスピーチ

学年の実態に応じ、日記やスピーチに取り組んだ。ふるさと学習につながる内容を紹介し、児童の気付きの広がりを図った。1年生の国語科では、互いに交流しながら暮らしを見つめ表現する力をつけ、日常の日記指導へつないだ。（実践事例4）

### （2） 交流活動の工夫

#### ① めざす児童像と教師の役割の明確化

「交流活動」とは、仮説2のために設定した授業における児童同士の交流を指す。活動目的や活動場面のイメージを具体的にするため、交

	話す力	聞く力	交流する力
低学年	○自分の考えを順序立てて話すことができる。	○友だちと自分の考えとくらべながら聞くことができる。	○自分の知っていることやしたことを思い出して、関連づけることができる。
中学年	○自分の考えの根拠を明確にして話すことができる。	○友だちと自分の考えを比べながら聞き、同じところや違うところに気づくことができる。	○学習したことや体験したことを関連づけることができる。

【交流活動におけるめざす児童像】

流活動におけるめざす児童像を設定し、さらに児童が使う話形や教師の言葉かけを整理し、教師の役割の明確化を図った。4年生の社会科では、調べ学習や資料を関連付け、地域の人々の願いや苦勞について互いの考えを交流した。（実践事例5）

#### ② 交流の方法と場づくりの工夫

方法の工夫としては、クイズ・インタビュー形式で児童の意欲を高めたり、グループ活動や中間発表会で思考の広がりや深まりをねらったりした。また、場づくりの工夫としては、ホワイトボード・机の配置・板書・教室掲示の工夫やG Tの活用などを考え、授業のねらいに応じた交流ができるようにした。3年生の理科では、グループ活動や全体討議での交流を図り、板書・教具の配置による場づくりを工夫し、互いの考えを交流することに集中できるようにした。（実践事例6）

実践事例4【くらしを見つめ表現する活動の日常化】

第1学年 国語「こんなことしたよ」





【単元の目標】

○友達に伝えたい自分の体験を思い出し、体験したこととその時に感じたことを、語と語、文と文のつながりに気をつけて書き、交流することができる。

【中心となる評価の観点】

(書く)

・自分の体験したことの中から書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を思い出して、3文程度の文章を書き、書いたものを読み合っている。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p><b>導入</b></p> <p>図うか！これをがんばるぞ！</p>	<p>めあて：ともだちのかいたぶんしょうをよもう。 しつもんやかんそうをはなそう。</p> <p>読んだ人は、どんなことを話せばいいですか？</p> <p>質問したいことやいいところや思い出したことを話します。ノートに書いておきましょう。</p> <p>となりの人（ペア）とやってみましょう。</p> 
<p><b>展開</b></p> <p>よし！やってみるぞ！</p> <p>図たえ合おう！</p>	 <p>読み手：花は、さきましたか。 書き手：1個目はいっぱい咲いたけど、2個目はあまりさかなかった。</p> <p>こんどは、みんなでやってみましょう。</p>  <p>ぼくのじいちゃんがはたけでピーマンをちぎってました。あせがでていました。</p>  <p>私も、ピーマンを植えたり穫ったりしたことがあります。</p>
<p><b>まとめ</b></p> <p>図れからのわたしたち</p>	<p>家の人ががんばってお仕事しているところもよく見ておきましょう。それをこれからもみんなに書いて教えましょう。</p>

【単元の成果○と課題●】

○「ともだち」「かぞく」「しぜん」「しごと」「からだ」という言葉から、自分の経験を想起させ、題材を考えさせたことで、児童が自分の生活を見つめ、書きたい事柄を決めることができた。

○日記にも、自分で家族の仕事や身近な自然を題材に選び、進んで書くことができた。

●交流場面では、読み手の児童が「質問」や「思い出したこと」を話すことができたが、「よかったこと」は少なかったので、今後、児童の気付きを引き出しながら、よりよい交流をしていき、児童の気付きの質を高めていきたい。